

## グループホームにおける薬の適正な使用と管理

### 【はじめに】

近年、高齢化社会の到来により、様々な理由から在宅での医療を受ける高齢者が増えてきている。それに伴い薬剤師の在宅への密接な関わりが求められている。

たけの薬局では開局当初から近隣医療機関、訪問介護、訪問看護の方々と協力連携して在宅医療を進めてきた。当薬局では薬剤師が薬を通し在宅医療へ関わっていくことで、在宅訪問患者がより質の高い生活を送れるように努力している。中でもグループホームでは、複数の患者に対し複数の介護者が関わっているので十分な連携が保たれてない等、混乱が生じやすい現場である。薬の管理に関してもいくつか問題点が挙げたが、特に外用薬については、内服薬にくらべ、慢然と使用されていたり、残薬があったり、適正な使用をされているか見落とされがちだった。

今回はグループホームにおける外用薬での問題点と、それらへの我々の取り組みについて報告する。

### 【取り組み】

グループホームにおいて薬の適正な使用と管理がされることを目標とし、2つの点(A、B)に絞り、問題点にアプローチした。

A．残薬調節、薬の配置変更などの環境整備

B．スタッフの意識、薬の知識向上

まず、A.環境整備のアプローチとして、残薬調節、期限切れの薬の処分、外用薬の箱設置による、保管場所の統一と整理などを行い、スタッフ、薬剤師だれからみても分かりやすく、使いやすくする。

次に B.スタッフに対するアプローチとして、勉強会の実施による薬の適正な使い方の教育を行うとともにコミュニケーションを図った。またチェック表の導入によりコンプライアンスの向上を試みた。